

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和3年3月22日

事業所名 放課後等デイサービスGIFT

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	個別支援・活動計画	現在定員越えがある為、適正な人数厳守を図るよう新規事業所の開所を進めている
	2	職員の配置数は適切である	○		基準以上の配置をしている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		バリアフリー化はしていないが、今後必要に応じて設置していく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		利用者担当を設置し、個別に掌握出来るようにしている。ミーティング等でディスカッションしている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		課題は個々に話し合っている	問題事案に対して真摯に受け止め、即座に対応できる体制をとっていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後、外部評価を実施し自己評価との相違を明確にしたうえで改善していく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			事業所内は定期的に行っており、外部研修は積極的に参加していく
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		定期的なアセスをとっている	シートの内容の工夫・頻度を上げた定期的なアセスを取り、内容の変更をしていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		会議を開いて決定している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			もっと細部にまで拘った活動計画を立てる
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		日替わりの情緒に合わせて、複数の計画を立てている	状況設定のパターンを、個別にもっと増やしていく。職員の個別スキルを活かした計画を立てていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝ミーティング開催	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		送迎で帰所にバラつきがある為開催していないが、今後は検討していきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		○		半年に一度のモニタリングが殆どであるが、今後は必要に応じて関係機関も含めて不定期に行っていく
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		必要に応じて複数のスタッフで参加している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		時間割、イベント広報等の把握	把握しているつもりでもミスがあったりする。急な予定変更に対しても対応できるように、密な関係性を図る。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在は医療的ケアが必要な利用者はいないが、今後のことも踏まえ事業所体制を編成する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		ケース会議等の開催	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		定期的な訪問・連絡・情報共有	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		ケース会議等の開催	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		渉外部等をつくり、外部交流の企画をしていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			全スタッフがいつでも参加出来る様にしていきたい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		LINE等の活用	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			連絡をしやすい環境をつくり、密な連絡を心掛ける。必要に応じてセミナー等の参加も促していく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		希望はあるものの企画できていない。今後は定期的な開催を企画し、保護者同士の交流の場を増やしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			迅速な対応をしているが、満足はされていないようである。スタッフ間の連携を強化し、即日対応をしていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○			管理方法の強化をする
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域イベント等に積極的に参加していきたい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			誰でも参加できる様な研修を、定期的を開催する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			外部の訓練等にも参加して、スキルを上げていきたい
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			研修の頻度を上げていく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			必要な方に対する説明はしているが、そうでない方への説明も検討していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			診断書やアセスの周知
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			些細な事でも記録を取っていく